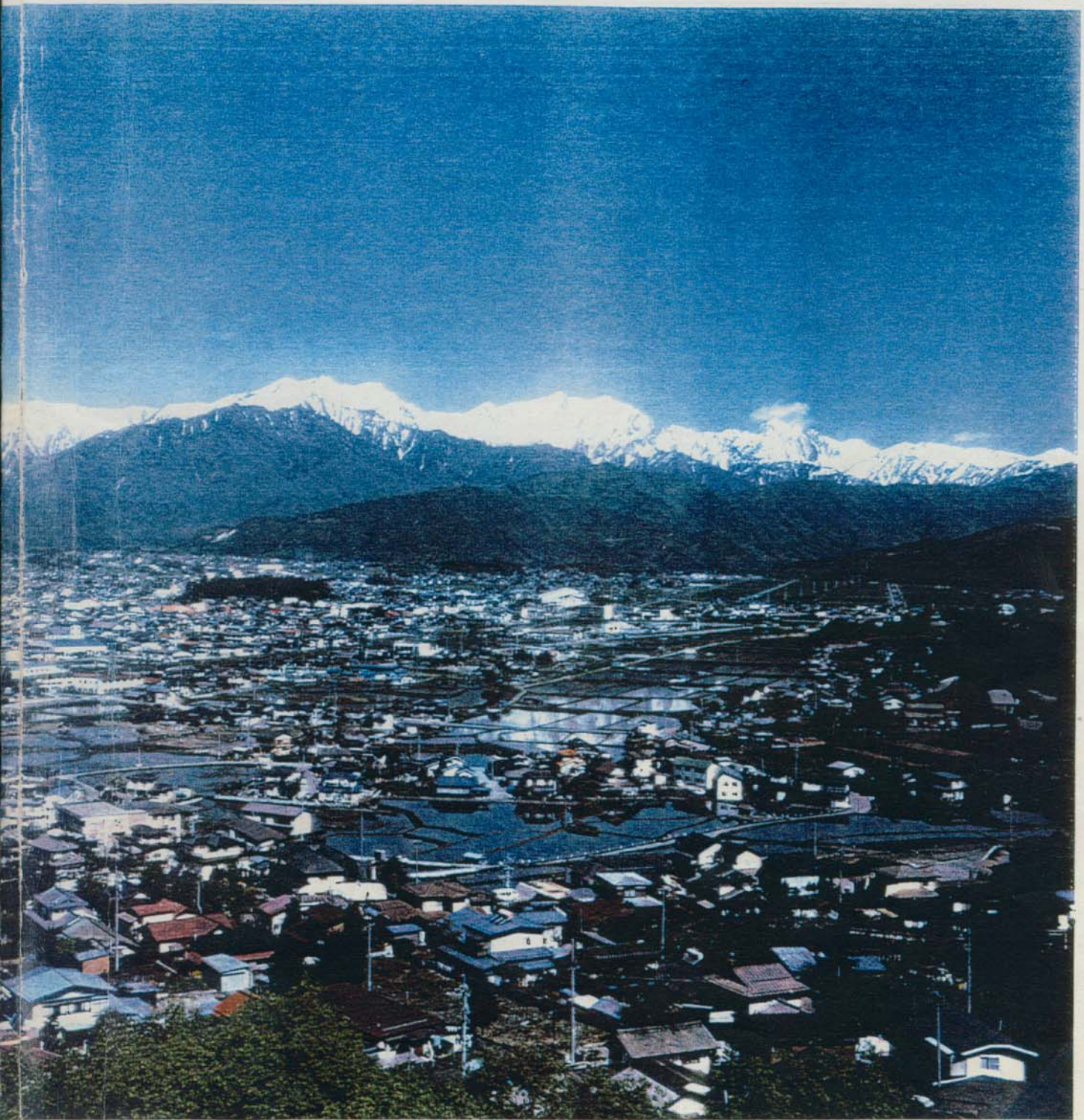


アルプス圏基村計画



長野県大町市

アルプス囲碁村計画策定にあたって

最近は、各地で地域づくりの活動が活発に行なわれておりますが、当市でも従来から個性的なまちづくりをめざして、そのテーマを模索してきたところであります。都市づくりの原点は人づくりと言われておりますが、囲碁を通じて人と人のコミュニケーションを深め、心豊かに生きるまちづくりの実現を図ろうと、今回「囲碁村づくり」の構想を進めることとしました。

この試みは全国でも初めてではありますが、囲碁は誰にでも楽しめる奥行き深い知的なゲームであります。単なるゲームとしてでなく、四千年の歴史を有する文化として我々の生活に位置付けられてきております。老若男女、年齢、国籍などを問わず、囲碁を通じてコミュニケーションが図れるとともに、人間形成や人材育成にも非常に役立つと聞いております。

この囲碁村づくりの基本的な計画策定につきましては、アルプス囲碁村計画検討委員会でご検討いただいたところでありますが、それらの意見をまとめまして「アルプス囲碁村計画」を策定いたしました。

この計画の実施にあたりましては、長期的な展望にたちまして、当面は、市民への普及啓発を中心に活動を進め、将来的には、各種大会の開催、囲碁にちなんだ特産品の開発、拠点施設の整備などに向けて施策を展開していきたいと思っております。

今後、市民の皆さんはじめ、日本棋院の関係者の方などのご支援もいただき、生涯学習の中に位置付けながら、囲碁を通じてのまちづくりに大きな期待をかけているところであります。

長野県大町市長 腰 原 愛 正

アルプス囲碁村計画に寄せて

大町市長より諮問されたアルプス囲碁村計画策定について、委嘱された13名の委員の精力的な討議の結果、報告書としてとりまとめ、市長に答申したことは、まさに囲碁村への歴史的一步を踏み出したものとも云えます。

この報告書が、今後囲碁村計画推進への指針となれば、審議に携わった委員にとって望外の幸せです。もとより、この構想実現のためには、市の財政及び諸般の事情により計画推進に緩急の修正は予想されるが、目的に向かって着実な歩みを続けることを強く望みます。

そもそも囲碁村構想は、当地の誇る自然景観を生かし、四千年ともいわれる伝統文化である囲碁を通じて「むらづくり」「むらおこし」を図ろうとするもので、他の市町村に例をみない独創的発想であり、いはば「碁」のふるさとを創設しようとするロマンに満ちた事業です。

この計画については、日本棋院はもとより、各自治体や全国一千万人ともいわれる囲碁愛好者が大きな期待をこめて注視しているものです。

現在、大町市は日本棋院の指導もあって、保育園児から小・中学生へ、更に生涯学習としての取り組み等により着実に普及の和が広がりつつあります。

今後、大町市がこの計画に基づき実施する施策、或いは民間レベルで行われるそれぞれの事業は、悠久と続く囲碁文化へ新たな歴史の1コマ、1コマを刻むものです。やがて、この計画が実現したとき、囲碁村は大町市のみならず、世界への囲碁文化の発信基地となるでしょう。

このことは、あたかも北アルプスの山並みの如く、その偉容と権威を誇り、この地に湧く清きせせらぎが、やがて大河となって大地を潤すように人々の心をも潤し、市民をはじめ国内外の人々の平和な交流の場となることを祈ってやみません。

アルプス囲碁村計画検討委員会
会長 日下久夫

目 次

I はじめに

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 アルプス囲碁村計画検討委員会検討概要 1~2

II 囲碁によるまちづくり基本構想

- 1 個性あるまちづくりの実現 3
- 2 豊かな自由時間への対応 3
- 3 観光・産業への展開 4
- 4 生涯学習への位置付け 4

III 囲碁村づくり推進の基本計画

計画策定の基本的な考え方 5

- 1 囲碁村の普及啓発 6~10
 - (1) 囲碁に親しむ
 - (2) 囲碁教室
 - (3) 囲碁を通じた活動
 - (4) イベント・交流会
 - (5) 広報・宣伝活動
 - (6) 推進体制の整備
- 2 拠点施設の整備 11
- 3 観光・産業への応用 12~13
 - (1) 観光への応用
 - (2) 産業への応用

参 考 資 料

- 1 大町市アルプス囲碁村計画検討委員会設置要領
- 2 大町市アルプス囲碁村計画検討委員名簿
- 3 財団法人日本棋院の本計画に対する賛同・協力の約束文書及び顧問の推薦状

I はじめに

1 計画策定の趣旨

戦後から着実な経済発展を遂げ、今では「経済大国」と呼ばれるようになった我が国・日本。しかし真に豊かな国となるためには、経済的な豊かさに加え、人々の時間的なゆとり、個人の価値観を大切にしたい生きがいのある生活、快適な空間を実現しなければならない。

大町市は雄大な北アルプスの自然に抱かれ、山々から流れる豊かな水とふんだんに湧き出る数多い温泉群、そして仁科三湖をはじめ多くの観光地に恵まれ、大きな可能性を秘めた地域である。

さらに、長野自動車道豊科インターが開通し、国営アルプスあづみの公園の着工、1998年長野冬季オリンピックの開催など、大町市とその近隣を取り巻く情勢は急激に変化しており、今、大きな飛躍の時代を迎えようとしている。

このような中で、大町市が活力と魅力あふれる未来を迎えるためには、そのベースとして多くの資源や可能性を活用しながら、あらゆる手法を用いて、人と人とのコミュニケーションを大切に、心豊かに生きるまちづくりの実現を図らなければならない。

この「アルプス囲碁村」計画は、その一環として、日本の伝統的な文化である囲碁を通して、大町市の都市づくりを推進するために策定したものである。

2 アルプス囲碁村計画検討委員会検討概要

アルプス囲碁村計画検討委員会の委員は、議会の議員、教育機関、市民団体の代表、関係団体の代表、知識経験者など13名から構成され、幹事として市役所の関係課の係長9名を置き、囲碁村づくりの基本構想、基本計画について検討を行った。

また、囲碁村づくりは、全国でも初めての試みであり、歴史的背景やベースとなる産業などの必然性を欠く中で計画策定を進めることは、方向づけが難しく、具体的イメージをつかむのに非常に苦慮したこともあった。しかし、財団法人日本棋院から本計画に対する全面的な協力の約束をいただくと共に、棋士安田泰敏八段を委員会のアドバイザーとしてご推薦いただき、専門的立場から多くのご示唆やご意見をいただきながら進めることができ、ようやく一定の結論に達した。

策定の経過については、委員会の前段に幹事による基本方針、検討課題を整理することからはじた。それをベースとして、既に保育園で行われていた安田先生による囲碁教室を見学した後、第1回委員会を12月19日に開催し、会長に日下久夫氏（日本棋院大町支部）、副会長に西山雄太郎氏（大町市社会教育委員会議）を選出し、それ以後、合計4回の委員会を実施し検討を行った。

検討概要としては、「まちづくりは人づくりから」という視点に立ち、囲碁を通じて「様々な人と人との関わりを大切にし、より良い関係をつくっていく」という「人の和づくり」をコンセプトに据え、また、そこに住む人々が中心になって課題に向かって努力していかなければ、真のまちづくりとはいえないとの認識に立って、当面は、市民への普及啓発を中心に行い、囲碁による特産品の開発、各種大会誘致、拠点施設の整備などの施策を多方面に逐次展開しながら具体化を図ることで、魅力ある「アルプス囲碁村」を目指すこととし、以下のとおり基本構想、基本計画をまとめた。

II 囲碁によるまちづくり基本構想

1 個性あるまちづくりの実現

人々の価値観が多様化し、モータリゼーションの発達、情報化、国際化が進む中で、個性あるまちづくりを進めることが、これからの来るべき時代に対応することになる。言い換えれば、「心に残るまち」「魅力あるまち」を創っていくことが必要である。そのためには、行ってみたいくなるような独自の文化、個性を形成し、新しい意味・価値をつくるようなビジョンを持つことが重要である。

囲碁によるまちづくりは全国的にも例がなく、市民同士はもちろん、市内外、国内外の多くの囲碁ファンと市民とのふれあいの場、コミュニケーションの場など、あらゆる情報発信の場として囲碁村づくりを進めることが、都市づくりの視点からも非常にユニークなものといえよう。

各地において「ふるさと創生事業」以来、いっそう活発になってきた地域づくり活動であるが、本市においても、すばらしい自然環境のほか、幾つもの個性的な都市づくりのテーマを模索してきたところであり、「アルプス囲碁村」計画は、今後の本市の個性あるまちづくりを実現する有力な手段として位置付けられるものである。

2 豊かな自由時間への対応

日本社会においては、労働時間の短縮や長寿化、学校における週休2日制への動きに伴い自由時間が増大する傾向にある。かかる社会においては、生活・教育水準の高度化、科学技術の急速な進歩、交流活動の活発化等を背景として体育、スポーツ、リクリエーション、趣味を含めて広く教育・文化・社会活動への関心と参加意欲が高まると共に、各種活動への参加体験、学習活動などがライフサイクルの各ステージごとに実現されていくことが大切になる。

このような自由時間の増大をいかに豊かに過ごし、創り上げるかが重要な課題となっている今日、「アルプス囲碁村」計画をライフステージとして位置付けるものである。

3 観光・産業への展開

北アルプスを中心とした大自然に恵まれた我が大町市には、立山・黒部アルペンルート、温泉、スキーなどを目的に、年間約400万人以上の観光客が訪れ、そしてその観光客は年間約250億円以上を消費し、地域産業の振興に欠かせないものである。

また、全国に約600万人といわれる囲碁ファンが観光を兼ね、ゆっくり温泉に浸かって囲碁に親しみたいという要望もささやかれている。

大町市のより一層の地域振興をはかるために、通年的滞在型観光、多目的観光の新たな、そして大きな観光資源として「アルプス囲碁村」づくりを推進する。

それと同時に、囲碁にちなんだ各種商品等の研究開発を行い、大町市と「アルプス囲碁村」の名産品・特産品として地場産業への振興をはかる。

4 生涯学習への位置付け

囲碁は、だれでも楽しめる簡単なルールで奥行き深い知的なゲームであるが、単なるゲームでなく歴史的にも人間としての素養、教養を高めるために重きをなしてきた。また囲碁は、老若男女、国籍を問わず、囲碁を通じてだれでもコミュニケーションがとれ、人の和の大切さを実感できるものである。さらに、礼に始まり礼に終わるといわれる囲碁は、人間形成・人材育成に非常に適しており、集中力や創造力の発達を養うものでもある。

こうした観点から、大町市生涯学習推進プランの位置付けは、地域づくりに視点が置かれているが、「アルプス囲碁村」計画は、生涯学習社会構築のための全教育機能の充実、市民の学習活動の活性化、生涯学習の推進体制の整備という三つの基本方針のいずれにも合致するものであることから、生涯学習社会を実現する大きな柱として推進されることが望ましい。

III 囲碁村づくり推進の基本計画

【計画策定の基本的な考え方】

「アルプス囲碁村」づくりは、その基本構想に基づき、1. 囲碁の普及啓発
2. 拠点施設の整備 3. 観光・産業への応用に分け、それぞれの基本計画を現時点で考えられる施策を混じえてまとめた。なお、施策の実施時期については、当初から継続するものもあるが、基本的に短期と中・長期とに大別し、可能な限り早期の実現に努める。

まちづくりの基本はそこに住む人々が自らの手で作り上げていくものである。大町市と囲碁との歴史的・地域的な背景はほとんどないところからのスタートであるが、「囲碁を学ぶ」のではなく、「囲碁に学ぶ、囲碁で学ぶ」という基本的な考え方をもとに、現代社会においての人と人との関係や人としてのやさしさ、思いやりなどを生涯にわたって養っていくことができる有力な方法として「囲碁によるまちづくり」を進めるものである。

そこで、「囲碁によるまちづくり」を進めるという基本理念について、市民のコンセンサスの醸成を図りながら、それぞれの施策へ展開していく必要があることから、囲碁の普及と底辺拡大、このための囲碁に親しめる環境作りに取り組み、囲碁村づくりを多くの市民との共同作業で実現させる。

このため、短い期間で成果を求めるものではなく、長い時間をかけて、じっくりと焦らずに普及に取り組み、この囲碁村づくりを確かなものとする。

1 囲碁村の普及啓発

(1) 囲碁に親しむ

囲碁村づくりには、なるべく多くの市民が囲碁に親しんでもらうことがその実現への第一歩となる。まず、保育園、幼稚園、小中学校の子どもたちへの普及を行うことにより、家庭や地域への広がりも考えられる。これは囲碁を通した子供同士、或いは親と子とのコミュニケーションの手段として最適なものである。また、囲碁はだれにでもできるゲームであるので、老人クラブをはじめとする各種団体、企業、各種施設等あらゆる層を網羅する普及活動の推進が重要である。

なお、普及にあたっては、初期段階においては、日本棋院の先生を招き、協力をいただき、将来的には地元の指導者がその任にあたることとする。

【主要施策】

(短期)

- ・ 保育園、幼稚園、小中学校における囲碁指導
- ・ 各種団体、クラブ、サークル、自治会等での囲碁に親しむ会の開催
- ・ 囲碁に関する講演会の開催
- ・ 公民館、児童館等においていつでも囲碁が打てる、人が集まれる環境作り

(中・長期)

- ・ 保育園、幼稚園、小中学校における囲碁指導の定期化
- ・ 囲碁に親しめる環境を各地域に整備
- ・ 学校等における囲碁を活用した教育活動の展開

(2) 囲碁教室

囲碁に親しみ、興味を持ってくると必然的にもっと深く知りたい覚えたいという欲求が湧いてくる。また、既に囲碁に熱中している市民も数多いと思われる。このような市民に対しての囲碁教室を実施し、技術の向上を図ると同時に、人々の交流の場となり、囲碁を通じた情報交換や心の交流によって、よりよい人間関係や連帯意識の向上を図る。

【主要施策】

(短期)

- ・各公民館で囲碁教室、囲碁講座の実施（各レベルごとの教室など）
- ・子供たちの放課後に合わせた囲碁教室の開校
- ・囲碁を題材にした市民セミナー等の開催

(中・長期)

- ・民間による囲碁教室の開校
- ・CATV、有線放送などでの囲碁教室

(3) 囲碁を通じた活動

囲碁の普及については、囲碁を打てるようになることだけを目的としたものではなく、囲碁を介した福祉活動や囲碁にちなんだスポーツ、レクリエーション活動、ボランティア活動、文化芸術活動等にも結び付け、それらに積極的に参加することにより各分野における囲碁村に対する意識の高揚とそれぞれの活動の活発化をはかる。

【主要施策】

(短期)

- ・高齢者、寝たきり老人、知的障害者、入院患者などと子供たちとの囲碁交流
- ・様々なボランティア活動の手段としての囲碁活用
- ・自作の囲碁用品、囲碁にちなんだ製作物の研究開発

(中・長期)

- ・公民館や自治会の行事、大会等に囲碁コーナーを設置
- ・囲碁交流等定期的な福祉活動
- ・囲碁を取り入れたスポーツ等の研究開発
- ・自作の囲碁用品、囲碁にちなんだ製作物の品評会、コンテスト実施

(4) イベント・交流会

それぞれの場において、囲碁への関心や親しみが生まれてきたところで、囲碁村に対する市民意識の更なる高揚と人の輪を一層広め、普及活動の活発化を図るために各種イベントや交流会を随時開催することは必要である。それらはだれでも参加でき、気軽に楽しめるものとして企画することが大切である。

また、対外的にも「アルプス囲碁村」や大町市のPRとして、各種大会の誘致を積極的に受け入れ、本計画の一層の推進を図る。

【主要施策】

(短期)

- ・保育園、学校間などの囲碁交流会、囲碁大会の実施
- ・子供たちと高齢者等年齢性別を超えた交流会の実施
- ・市民囲碁まつりの開催(規模の様々な)
- ・全国的な各種囲碁大会の誘致

(中・長期)

- ・各地域ごとに特色ある囲碁まつり等の開催
- ・全市的な囲碁まつり、囲碁大会の定期化

(5) 広報・宣伝活動

市民が自らの手で作り上げていく囲碁村であるので、すべての市民に囲碁村について今どんなことをしていて、これから何をしていくのかを知ってもらう必要があり、囲碁村に対する様々な意見やアイデアを出してもらうことが重要である。

また、全国的にも珍しい囲碁村をより多くの人々にPRすることも必要であり、囲碁村を知ることにより大町市を知ってもらい、ここに住む市民との交流につながっていくことが大きな目的である。

このためには、囲碁村に関する情報を市内外に向けて発信したり、逆にいろいろな情報を寄せてもらえるような体制をつくらなければならない。例えば、「囲碁村だより」とか「囲碁村通信」というような情報紙の発行やパンフレットの製作になるが、囲碁村づくりは今始まったところであり、広報・宣伝活動を急ぎ過ぎないように内容の充実したものにしていかなければならない。

【主要施策】

(短期)

- ・情報紙の発行（まずは市民向けに手作的なものから）
- ・囲碁入門書等の配布
- ・囲碁村に関する愛称等の募集

(中・長期)

- ・囲碁村情報紙の定期発行
- ・パンフレット、ポスター等の製作

(6) 推進体制の整備

当面は普及啓発活動を中心に囲碁村づくりを進める上で、指導者の存在は大変重要なものである。囲碁村づくりにおける指導者は、囲碁の技術の向上だけを目指にするのではなく、囲碁を通したコミュニケーションの中で様々なことを指導できる人が好ましい。このためには、より多くの人が囲碁村づくりについて理解を深め、普及活動の一層の推進のために、より多くの指導者を発掘養成し、囲碁村指導者としての登録化も必要である。

また、各種イベントや交流会、囲碁を通した活動等において、関係機関、各種団体、ボランティアなどと連携を深め、それぞれがまちづくりに関わりを持って活躍できる体制作りを進める。

なお、普及にあたっては、碁盤、碁石等の囲碁用品の整備充実は必要不可欠であるので、それらの計画的な整備と地場産品の自己製作の囲碁用品の開発も推進する。

将来の「アルプス囲碁村」の建設と管理運営等については、施設の有効利用も含め、関係機関との連携を図りながら（仮称）建設運営協議会等を設け、市民を含めた推進体制を整備することが望ましいが今後の検討課題としたい。

【主要施策】

(短期)

- ・指導者養成講座、研修会の開催
- ・協力団体等の選定、支援体制整備
- ・囲碁用品等の整備

(中・長期)

- ・囲碁指導者の登録化
- ・囲碁村運営体制の整備
- ・地場産の囲碁用品の活用

2 拠点施設の整備

囲碁村づくりを積極的に推進するためには、普及啓発活動のソフト面と同時に、中心となる拠点施設の整備が必要である。これは、囲碁村に関するあらゆる施策、情報の発信基地として、また、市民をはじめ囲碁ファンや関係者の憩いの場、ふれあいの場としての目的を有し、広く開放され、気軽に立ち寄れる施設が望ましい。理想的には、囲碁会館、囲碁博物館、囲碁に関する地場産品の展示販売所、宿泊施設などの機能を持った複合的な拠点施設である。

ただし、始まったばかりの囲碁村づくりが着実な成果を上げ、市民に浸透し、理解を得られるまでは、既存施設の利活用や他目的施設との併設、特に各地域の情報発信の中核である公民館の利活用を検討する。

【主要施策】

（短期）

- ・ 既存施設の利活用の検討、選定

（中・長期）

- ・ 複合的な拠点施設の整備

3 観光・産業への応用

(1) 観光への応用

大町市の観光の特徴は自然型観光地が多いことにより、季節や気象条件の影響を受けやすく、通過型観光といわれ、観光客のニーズも多様化、広域化し、体験志向型、多目的観光型へと移行している。

また、観光客の誘致、観光地の整備にあたっては、地域住民のレクリエーション、コミュニケーションの場としても配慮する必要がある。

全国に600万人といわれる囲碁ファンにとってこの囲碁村づくりは、非常に期待されており、観光地としての魅力を兼ね備えていることから、通年的滞在型観光を展望する中で、観光協会や旅行者などとタイアップし、より一層の観光産業の発展を促進する。

【主要施策】

(短期)

- ・ 既存観光地や集客場所での囲碁に関するPR活動

(中・長期)

- ・ 囲碁村と既存観光地を絡めたツアー等の企画

(2) 産 業 へ の 応 用

現在、地場産業の育成強化を図るため、地域の名産、特産等の研究開発に努力しているが、そこに囲碁にちなんだ商品の研究開発を含めることで地場産業の振興をより一層推進する。また、囲碁村にかかる観光客の増加により、地場製品の消費拡大と宣伝効果に期待が寄せられる。

これらは、商工会議所やJ A（農協）などの関係機関との連携をとりながら、大町市の地場製品の目玉となるような個性的なものとなることが望ましい。

【主 要 施 策】

(短 期)

- ・ 囲碁にちなんだ商品の研究開発

(中・長期)

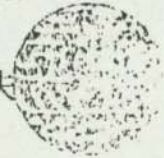
- ・ 囲碁にちなんだ商品の地場産品化、物産展等への出品
- ・ 囲碁用品の生産地化

平成6年12月13日

長野県大町市

市長 腰原愛正殿

財団法人日本棋院
理事長 渡辺文夫



「大町市アルプス囲碁村」構想に関する、本計画の策定並びに推進につき

まして、財団法人日本棋院は、その計画に賛同し、協力を約束いたします。

大町市アルプス囲碁村計画検討委員会設置要領

(設置)

第1 個性あるまちづくりの実現を目的として、囲碁の振興と普及に関する施策の検討を行うために、アルプス囲碁村計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2 委員会は、次の各号に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 囲碁によるまちづくり計画
- (2) 前号に定める計画の実施に伴う推進体制

(委員会)

第3 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

2 委員は、議会の議員、教育機関、市民団体の代表、関係団体の代表、知識経験者及び市吏員の中から市長が委嘱する。

(任期)

第4 委員の任期は、平成7年3月31日までとする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5 委員会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、委員会を代表し会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(幹事)

第6 委員会に幹事を置く。

2 幹事は、総務部庶務課、総務部企画財政課、民生部福祉事務所、産業建設部農政課、産業建設部商工観光課、教育委員会学校教育課及び教育委員会生涯学習課の係長のうちから市長が選任する。

3 幹事は、委員会の所掌事務について委員を補佐する。

アルプス囲碁村計画検討委員会委員名簿

氏 名	所 属 団 体 等 名	備 考
荒 木 荒 重	大町市議会	
佐々木敬次	大町市教育委員会	
柳 沢 幸 治	大町市観光協会	
小 日 向 忠	大町商工会議所	
高村登志治	大町市老人クラブ連合会	
日 下 久 夫	日本棋院大町支部	
犬 飼 康 雄	大町市内校長会	
二 條 孝 夫	大町青年会議所	
北 沢 久 輝	大町市連合自治会	
西 山 雄 太 郎	大町市社会教育委員会議	
奥 原 真 琴	大町市芸術文化協会	
松 沢 郁 子	大町市女性団体連絡協議会	
平 林 圭 司	大町公民館	

